

# まつのやま学園運営協議会 第2回会議録

令和7年12月9日(火) 15時50分～16時50分  
会場：会議室 進行：市川教頭 記録：柳教頭

## 1 開会のあいさつ(志賀会長)

ハートウォーミング集会では上級生が上手に司会をしていて感心した。もっと元気な声で発言をすればより良かった。相手の気持ちを思いやれる姿が見られた意義のある会であった。

## 2 学園の様子(渡邊学園長)

- ・ハートウォーミング活動は、いじめ見逃しゼロを目指し年間を通して実施している取組である。学校の安全安心を下支えする重要な活動である。
- ・学校の様子として、夏は、熱中症へ配慮しながら活動し、親善陸上では混合リレーで優勝できた。10月、公民館事業としての地域行事に参加、サミットを成功させることができた。11月、学園フェスタを午後の体験と分け実施したが、この形で今後もいく。感染症拡大防止で臨時休業の措置をした。地域にクマ出没情報が数件あり、子どもたちには、クマ鈴の携帯や保護者送迎等の要請及び注意喚起をした。県駅伝出場の女子駅伝チーム、体調不良者が多く、棄権となり残念であった。6年修学旅行は実り多いものとなった。12月、これからスノーシーズンとなる。
- ・いじめ認知について、中学部1件、小学部3件。1件が解消、3件が指導継続中。
- ・不登校・不登校傾向について、中学部1人、小学部5人。
- ・特別な支援・配慮を必要とする児童生徒は17名、全校児童生徒の約25%。
- ・教員の病気休職1名(10月～12月)。
- ・教員の働き方改革は、待ったなしの状況。時間外勤務時間の削減に努めている。ご理解とご協力をお願したい。

## 3 協議

### (1) 前期の学校評価について

#### ① 「まなび」学力向上対策の充実

成果：1学期に授業公開が多く行われたことにより、研究主題に関する意識が高まった。授業中に自分の意見をなかなか言えない児童生徒でも意欲的に楽しく学習に臨めている結果となつた。

課題：家庭学習に関する肯定的評価が著しく低い。家庭学習に関する家庭との連携、自主学習のやり方の指導、授業規律の改善が必要である。

#### ② 「からだ」健康・体力づくりの推進

成果：いきいきアップや全校体力テスト、地域の体育的行事への参加などをきっかけとして、児童生徒及び学校職員の体力向上への意識や意欲が高まっている。今後も、体育の授業改善を中心に据えながら、児童生徒の体力向上に向けた取り組みを継続していく。

課題：メディアの利用に関して、児童生徒と保護者の捉えが大きく異なっている。その要因としては、家庭でのメディア利用の約束が決められていないことや、PTA発のメディア(通信機能)利用のルールが各家庭に浸透していないことなどが挙げられる。

#### ③ 「ゆめ」不登校の減少・いじめ防止についての取組

成果：肯定的評価では、児童生徒教職員とともに「いじめ」についての理解ができている。「不登校の減少」では、教職員が児童生徒理解につなげるための情報交換を細かに行い、一人一

人へのきめ細やかな対応を行っていると考えられる。今後も「いじめ」が起こらないよう、「不登校の減少」に勤めるよう継続して活動を行っていく。

課題：評価項目内の「子どもとともに1・2・3運動」を確実に実践しているは、肯定的評価が78%となっている。1・2・3運動を可能な限り実践できるよう活動内容などを共通理解していく。また、キャリア教育の視点を意識して様々な教育活動を行う。アンケートでも78%なのでキャリアパスポートの取り組みについても検討していく。

#### ④ 「きずな」特別支援教育の充実

成果：各担任が個々に合った支援を考え、実行できた。また、支援内容を職員間で共通理解し、適切にかかわることができた。

課題：通級指導教室との連携を密にしていく。特別支援教育校内委員会をより機能させていく。通級を利用していないが、学級の中で支援が必要な子への支援を検討していく。

### ＜質疑・応答＞

質問) 具体的ないじめの状況について教えてほしい。

学園) いじめ防止基本方針により対応している。子どもが、心身の苦痛を感じているものは、すべていじめとして認知している。悪口、叩く、ズボン下ろし等がある。

質問) 不登校の子どもへ対応としてのタブレット利用はどうなっているか。

学園) 不登校児童生徒に限らず、感染症等の欠席時や、校内支援センター（ゆとっとルーム）での学習にもオンラインで授業が受けられる体制が整備され、運用している。

### (2) 3部会からの報告

#### 学園づくり部会

##### ① 実施内容

地域連携・協働した学園づくり、地域交流事業等が計画され実施されている。

##### ② 今後の課題

雪里留学（藤倉ハウス）の推進、移住促進に係る市及び学園の情報発信の工夫、まつのやま保育園との連携、学園と自然・地域との連携・協働のさらなる推進、部活動地域展開に向け、地域の受け皿拡大と指導者確保などの検討が挙げられる。

#### 学園教育充実部会

##### ① 実施内容

まつのやまタイムを中心に、地域講師（協働推進委員）の方から指導いただき、どの学年も「生き生き」と体験し学びを深めている。

##### ② 今後の課題

活動の評価や児童・生徒が自分の成長を自覚できるような手だて、今年度の活動を次年度へどのように継続していくかが課題である。

#### 家庭教育充実部会

##### ① 実施内容

- ・ 9月18日（木）インターネット協会主任研究員 大久保 真紀 様を講師に、「メディア講演会」第1部：「デジタルウェルビーイングしてる？」第2部：「家族でデジタルウェルビーイングを！」を実施。
- ・ メディアコントロール「いきいき週間の取組」として6月・9月・1月の年3回実施し「早寝、早起き、メディアコントロール」の3つを意識して生活する力を付けている。今後も保護者の協力を得ながらより良い生活習慣が身に付くよう指導していく。

##### ② 今後の課題

今年度、初めて保護者参加型の講演会の形式をとった。今後、より保護者が参加しやすい講演会の在り方やテーマ設定等について模索していきたい。

<質疑・応答>

・ 除草ボランティアについて

質問) 除草ボランティアについて、長期的に除草を行うことが難しいとおもわれるが、学園としてはグラウンド除草についてどう考えるか。

学園) 除草ボランティアの主体は学園ではなく、保護者、有志の方なので、そこでの検討となる。

委員) 個人的には、除草剤を使用しない有志の集まりなので、有志がいなくなれば止める方向になるだろう。ボランティア、有志に判断を任せてよいのか。

学園) 環境、食等の問題については、多様な考え方があると承知している。どちらかに振り切った判断はしない。学園としては、折合いをつけて教育活動を推進していく。

委員) 個人の意見として、使用している除草剤はピンポイントに効くようになっているため、人体に与える影響は少ないと思われるが、除草剤を使わずに、協力できることをしたいと思っている。

質問) 金銭的な問題で解決する方法もあるのではないか。

学園) 人と自然の共生について、保護者や地域の方と共に考えていきたい。

(3) まつのやま学園創立 10 周年記念事業について

令和 8 年 10 月 31 日 (土) に式典・祝賀会を実施する。詳細については、令和 8 年 2 月に第 1 回実行委員会が行われ、計画案が示される。

(4) 意見交流 (志賀会長)

なし

(5) その他

なし

4 閉会のあいさつ (日本副学園長)

学園では今後も正しい人権感覚を身に付けさせてていきたい。また、学園の強みを伸ばしながら、課題についても今後検討してより良いまつのやま学園を目指していく。